RECRUIT 2021

The University of Tokyo Association Football

accenture

RHEOS CAPITAL WORKS

Greeting

新入生の皆さん、合格おめでとうございます。
皆さんが東大に入れたのは、このような未曾有の状況下でもコントロールできない環境に
左右されることなく、多かれ少なかれやるべきことをやり抜いたからだと思います。
そのひたむきさを今度はア式蹴球部で発揮しませんか？

ア式蹴球部には皆さんの能力を様々な形で発揮する環境が整っています。
サッカーが上手くなるために思う存分努力できる環境だけではなく、
ステークホルダーとの関わりを強める活動やステークホルダーを増やしていく活動など、
クラブとしての付加価値を高めるプロジェクトに挑戦する環境も弊部にはあります。
それら全てがア式蹴球部としての勝利・強化に繋がっていくものと思っています。

私たちは大学サッカー界において現時点でトップレベルにはありません。
戦う相手は高い身体能力を持つサッカーエリート達。
そんな中で、自分たちよりも強い相手を倒していくことに挑戦し続けます。
その挑戦により、あなたは「東大生」とは別の自分と出会うことができるはずです。
かけがえのない四年間を共に。

主将＿吉岡泰生＿

新歓代表＿大矢篤＿

新入生の皆さん、東京大学へのご入学おめでとうございます。

新型コロナウイルスの流行による様々な苦難を乗り越えて、無事大学生となった皆さんには様々な可能性が広がっています。小中高とは全く異なる、大学という舞台がもたらす自由は、時に不自由で、その無数の選択肢から一つを選ぶことは簡単なことではありません。

東大ア式蹴球部は東京都大学サッカーリーグ一部に所属し、悲願の関東リーグ昇格を目指し闘っています。そして我々はそんな大学生たちに用意された様々な選択肢を実行できる環境を整えています。

運動会には珍しい、先進的な組織運営により、サッカーに関連する多様なプロジェクトを、学年・選手スタッフ問わず、発案・実行することができます。学生コーチ、テクニカルスタッフ、国際的活動を進めるスペシャリスト、選手、トレーナーなど、多様で個性的な存在が部に在籍しており、無限の可能性がこのア式蹴球部にはあります。

そして当然、この地球上で広く愛されるサッカーの楽しさも全ての部員が感じることができます。10年以上の競技歴を持つプレイヤーがほとんどの中、圧倒的な経験と知識に裏打ちされた指導は、今までのサッカーとは異なる楽しさを再発見させてくれます。サッカーエリート達を東大生が倒していく姿は、必ずや皆さんに達成感と感動をもたらします。

皆さんには、ぜひこの環境を使って様々な可能性を実現して欲しいです。高い目標をもつ仲間達と、挑戦し続ける日々はかけがえのない宝物になります。一度、グラウンドに足を運んでみてください！
部員一同、皆さんを待ってます。

—Introduction—

大学サッカーとは

大学サッカーは、高校サッカーのように、全国大会がテレビ放映されることはありません。しかし、大学サッカーのレベルは決して低くなく、毎年プロ内定者の約半数が大学サッカー出身、その約半数は東大ア式蹴球部が昇格を目指す関東リーグの出身です。

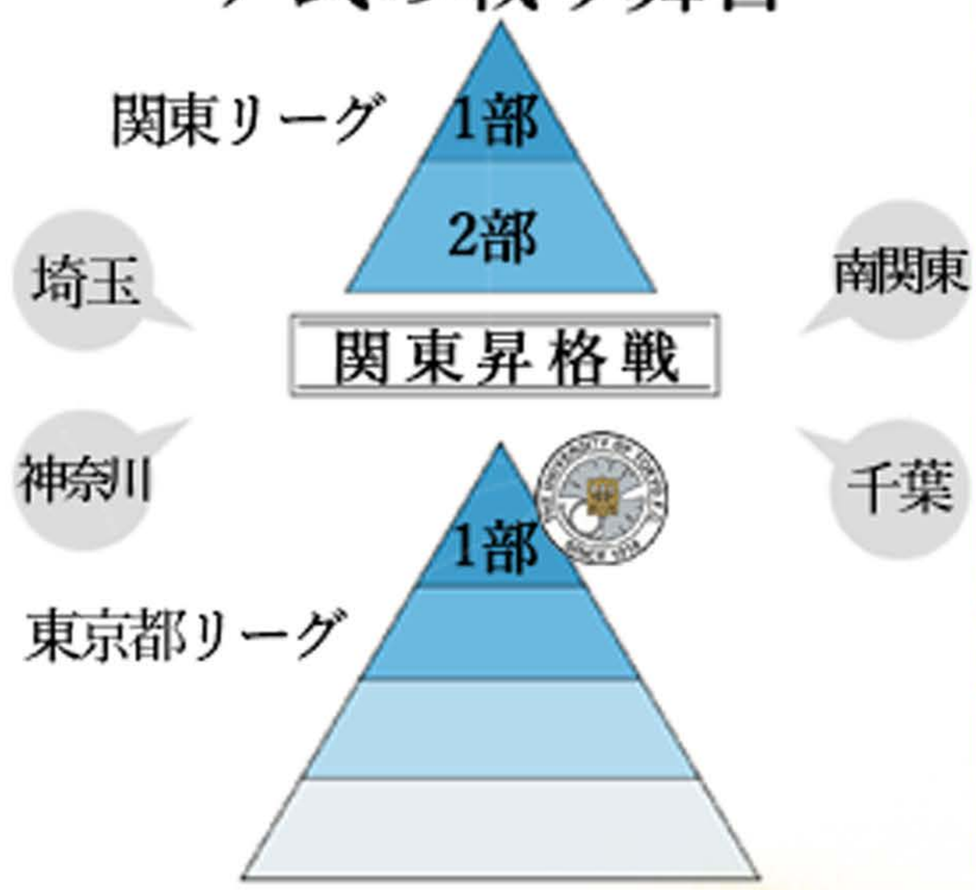
大学サッカー部が一様に目指すところはリーグ優勝です。例えば東京都内の大学サッカー部であれば、必ず関東リーグ1部から東京都リーグ4部までのいずれかに所属し、所属リーグで優勝し上のリーグへ昇格することを目指しており、その点では選手権など一つの大きなトーナメントに重きを置く高校サッカー部とは異なります。

また、チーム運営などが学生の主体性に任されることも大学サッカー部の大きな特徴と言えます。そのため部員それぞれが自分の役割に責任感を持ち、一丸となって勝利に突き進むことが求められます。

1918年に創部され、2018年で創部100周年を迎えた東大ア式蹴球部は、昨年東京都2部リーグからの昇格を果たし、現在東京都1部リーグに所属しています。都1部には13の大学が所属しており、リーグ戦形式で前期・後期合わせて24試合を戦います。

チームの目標は1年での1部リーグ復帰、そして1977年に降格して以来40年以上達成されていない「関東リーグ昇格」です。究極目標と理念の下、組織として、個人として、革新的な発想を常に探究し、自らの成長につなげられる環境が弊部には備わっています。

ア式の戦う舞台

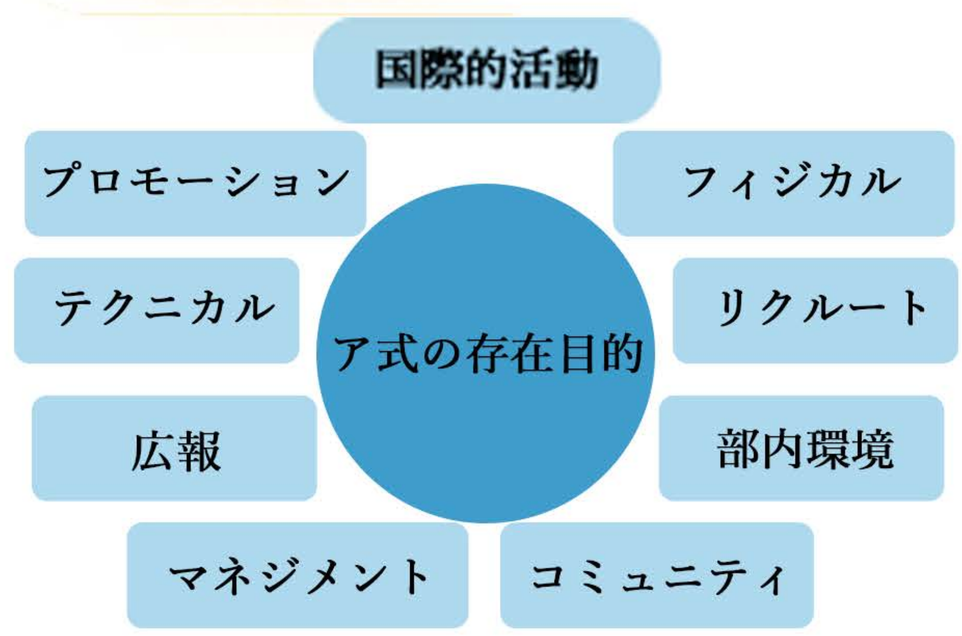


ア式の存在目的

部員全員がサッカーの楽しさを享受する

周囲から愛されるチームになる

社会に貢献する先進的な人材を輩出する



New Coach

林 陵平 Ryohei Hayashi

2021シーズンより弊部監督に、昨シーズンまでJリーグで活躍されていた元プロサッカー選手、林陵平氏が就任しました。この監督就任は、「現役引退後すぐ監督就任」という異例のケースであるということもありメディアでも大きく取り上げられました。そこで、林監督と、吉本理ヘッドコーチ（OB、R2卒）、インタビュアーに水本龍志（新2年プレイヤー）を迎えてスペシャルインタビューを実施し、全編記事をHPにて公開いたしました。ここでは、ダイジェスト版を掲載します。

インタビュー全編記事はア式HPにて公開しています。ぜひチェックしてみてください。

・インタビュー・

水本：まず初めに簡単な自己紹介をお願いします。

林：1986年9月8日生まれ、34歳です。選手生活は、ヴェルディにジュニアからユースまで10年間在籍して、明治大学で4年間学業とサッカーをし、その後東京ヴェルディに戻っていろんなチームを渡り歩きながらプロ12年間。Jリーグ通算300試合出場67ゴールを決め昨年引退し、今年東京大学運動会ア式蹴球部の監督に就任しました。

吉本：林監督が去年まで活躍していたJリーグでは近年大卒選手の活躍が目立っていますが、ズバリ東大からプロサッカー選手は出せると思うか、あとは正直東大生でプロを意識してる選手ってなかなかいないとは思うんですが、陵平さん自身にはそういう意識を持つきっかけを与えたいっていう気持ちがあったりしますか？

林：まず1個目について。俺は全然出ると思うし、最後は自分自身がどうなりたいかってところがすごい大事だから、チャンスがある選手は出てくるんじゃないかって思うよ。実際今も誰か部内でプロを目指しているプレイヤーがいるって話を聞いたけど、俺はサッカーを真剣にやるならやっぱりプロになりたいと思ってる選手がいて欲しいなってのはあった。せっかくやるならというか、自分がやりたいこともしないでその時間を捨ててサッカーに打ち込むんだし、そういう意味ではプロを目指して欲しいって思いもあった。そういう選手がいればもちろんだけど、俺はきっかけを作りたいと思ってる。例えば実際Jリーグのチームとの練習試合を組もうと計画してるし、いい選手がいるならそういう選手をいろんなチームに推薦して練習参加どうですかっていうのも聞けるし。そういう意味ではア式にもチャンスはさらに広がると思うから、是非前向きに目指して欲しい。

水本：林監督としてはア式蹴球部にどういう変化をもたらしたいと考えていますか？

林：これは結構はっきりしてて、去年まで遼（山口遼前監督）が3年間作り上げてきてくれたおかげでだいぶ戦術面は整えられたと思うし、素晴らしい3年間だったと思う。もちろんそのいい部分を残しながらも、やっぱり俺がア式に足りないと思うのはフィジカル的な要素とか個の質の部分かな。結局はサッカーって戦術が勝負を決めるわけじゃなくて個人の技量が決める部分が大半。一対一に負けないだとか最後シュートをしっかり決めるだとか、やっぱり最後は個の部分がすごく大事になってくるから、その個の部分をより高めていくようなトレーニングをしていきたい。フィジカル的部分でもやっぱり走るだとか身体で負けないという部分は、自分自身大学でもサッカーをやって一番大事な部分と思っていた。しかも今年は１部になってレベルの高い選手たちと戦うということで、戦術だけではカバーできない部分が絶対にあるから、どれだけ個人が一部の中で戦えるかってのがすごく重要になってくると思うし、そういう面での成長を促していくような取り組みは今まで以上にしていきたい。個の部分の成長があれば戦術的な部分もさらに伸びていくと思うしね。

水本：林監督といえば海外サッカーが大好きということで、解説者としても活躍されていますが、解説に挑む時にはどんなことを意識されていますか？

林：いつも試合は見てるからある程度選手名とかはわかってるけど、やっぱり試合の２チームの直近の３試合くらいとか、それ以前の試合のゴール動画とかハイライトはちゃんとチェックし直すね。そういう下準備とかはしっかりする。この間はトッテナム対WBAを解説したけど、やっぱり見てる人はトッテナムのファンとかが多いし、そういう人たちは解説者が試合をちゃんと見てきてるのかは解説者の言葉を聞けばすぐわかるからね。

吉本：そうやって３試合ずつくらい見てスカウティングしたりというのは、指導者としても活きそうですか？

林：そうだね。サッカー選手の中でもサッカー全く見ないってやつもいればサッカー見ると眠くなっちゃうなんて人もいるけど、俺自身はもともとサッカーを見るのが大好きだし、それ自体を仕事とも思ってない。趣味の延長上というか本当に好きだから見てるって感じだから、自分にとっては天職なのかなとも思うし、それがサッカーにもつながるとは思ってる。

水本：引退後、様々なサッカーへの関わり方を経験した上で適性を見極めていきたいというお話をよくされていましたが、その中で監督という関わり方に感じる特有の魅力などはありますか？

林：やっぱりコーチと監督というのも違うし、監督というのは最終的に決断する存在だと思ってるから、そういう面で全ての決断を託されてる、責任を負うことが監督なのかなと思う。その上でサッカーの采配だけじゃなくてチームマネジメントというのもすごく大事にしないといけないのが監督なのかなと思ってる。

水本：そんな「監督」をするにあたっての自分の強み、林監督ならではの監督に向いている点などご自身で思いつくことがあれば教えていただきたいです。

林：俺意外と冷静なのよ。（笑）いい意味で熱くなんないというか。だからチームをうまくまとめる、雰囲気を良くさせる力はあると思ってる。文句を言ったり明らか不機嫌な時がないというか。あと冗談とかも結構好きだから、チームがいい雰囲気でトレーニングをしたりっていう環境作りはできると思う。

水本：確かにユーモラスな印象があるので、そこら辺もこれから楽しみにしています。そんな監督業に適性を感じられれば、今後さらに上のレベルを目指していかれると思うのですが、将来的にこのクラブを率いたいなどありますか？

林：今、どこを率いてみたいとかは特にないかな。でも実際に監督をしてみて、例えばJリーグの監督をしてみたいなと思ったら、ライセンスも今はB級まで持ってるけどA級とS級も取らないといけないし、まだそこに向けての一つ一つの階段があると思う。そうやってどんどん次のステップが見えていくのかなと。一段一段登っていって、自分に合った話があればという感じ。

水本：なるほど。ア式の監督に就任されてからもう２ヶ月程経過しましたが、ア式の内部、交渉に当たった強化ユニットや杉崎さんも加わったテクニカルユニット、OBコーチ中心の指導体制など少しずつ見えてきたと思いますが、1人のプロとしてどんな印象を持たれましたか？

林：いや、面白いよ。吉本とかもコーチとしてしっかりしてるなと思うし、フィジカルユニットの田所なんかもしっかりやってくれているなって感じる。やっぱり何か他の学生たちとは違った側面がたくさんあるなというのはア式に入って感じた。例えば連絡の取り合い方も、Slack（チャンネルベースのメッセージプラットフォーム）っていう初めて聞いたようなところに入ってみんなで情報を共有したり。例えば俺が戦術のミーティングをしたいって言ってゲームモデルとかを書いた紙を送ってまとめてって言ったら、テクニカルユニットでしっかりしたパワーポイントにまとめて送ってきてくれたりとか、あとはランニングの計測を実施して結果を送ってって頼んだらきっちりとデータにして送られてきたりだとか。そういうのはやっぱりすごいことをしているなと思う。

水本：最後に、今季の目標、意気込みを教えてください。

林：まず選手たちに今年の目標はと言うのは聞いて、選手の中で話したこととしては１部残留ということだった。個人としてもここ数年昇格しては1年で落ちているということを考えれば現実的な目標としてはまずは残留だと思う。4年生がたくさん抜けて厳しいというのもあるけど、残留するためにみんなで戦っていきたいと思っています。

Players' Lifestyle

1 年間スケジュール

Feb.　スタートアップ合宿
Mar.　アミノバイタルカップ
Apr.　前期リーグ戦開幕
Jul.　双青戦
Aug.　夏合宿
Sep.　後期リーグ戦開幕
Oct.　都トーナメント
Dec.　冬オフ

ア式蹴球部が所属する東京都大学サッカー連盟では、
年間を通して様々な大会が開催されます。
勝ち上がれば関東レベルのチームと戦うこともできるアミノバイタルカップ、
今シーズンは全13チームの相手校と
春秋2回に分けて戦う計24試合のリーグ戦など、
シーズン中はほぼ毎週試合があるので
日々の練習の成果を発揮する舞台が十分にあります。
12月からは約1か月半のオフ期間もあり、
ゆっくり身体を休めたり、勉強したり、旅行に行ったりなど、
自分の時間も確保できるので、メリハリのある1年を過ごすことが出来ます。

週間スケジュール 2

Mon.　オフ
Tue.　17:30-/18:30-
Wed.　17:30-/18:30-
Thu.　17:30-/18:30-
Fri.　13:15-
Sat.　試合など
Sun.　公式戦など

	月	火	水	木	金	土	日
1限			法Ⅰ	身体運動科学	初ゼミ		
2限	健康スポーツ医学	国際関係史			美術論		
3限	政治Ⅰ	中国語一列	英語二列	英語中級	スポ身	部活	公式戦
4限			情報	中国語初級	中国語二列		
5限		歴史Ⅰ					
6限		部活	部活	部活			

上記は昨年の1年生(文科Ⅰ類)の時間割です。
部活は基本夜練で、遊びの予定も入れ易く、インターンなどと両立も可能です。
授業と時間が被る際は授業を優先できます。1回の練習は1時間半程度です。

練習環境 3

2018年に弥生キャンパス農学部グラウンド横に新設された
2階建ての部室がア式蹴球部の部室です。
1人1つ十分に使えるロッカールームや、
練習後に汗を流せるシャワールーム、
戦術ミーティングなどを行ったり、
部員同士のコミュニケーションの場である
ミーティングルームなどが完備されています。
キャンパス内にある人工芝のグラウンド2面で主に練習を行い、
御殿下や駒場のジムで自主的に筋トレに励みます。

—Players' Lifestyle—

4 練習体制

現在ア式蹴球部では、公式戦に出場するAチームと
Aチーム昇格を目指す育成チームの
2チームに分かれて練習を行っています。
育成チームにも練習の成果を発揮する機会は存分にあり、
毎週土曜日に開催されるサタデーリーグや
他大学との練習試合など、
Aチームと同様に毎週試合は開催されます。
学年を超えた完全実力主義となっているため、
適度な緊張感を持ちつつ切磋琢磨できる、
成長に適した練習体制が整っています。

5 指導環境

日々の練習を指導し、試合の戦略を立てているのは、
昨年までJリーガーとして活躍し、
豊富な戦術知識を持つ林陵平新監督に加え、
高い専門性を持ったOBコーチ・学生コーチです。
プレーヤー一人一人と向き合い、
その時々のチームに最適の指導・練習メニューで
チームの強化に努めます。
練習動画・試合動画をもとにオンラインで
個人的なフィードバックを貰える体制も整っており、
選手全員が常に成長できる環境となっています。

6 充実したサポート

ア式蹴球部は選手の成長を
全力でサポートするスタッフに恵まれています。
日々の練習がスムーズに行われるように
グラウンドで立ち回るスタッフ、
選手のコンディション管理や
フィジカルトレーニングの指導を行うトレーナー、
試合の運営や広報を行うマネージャー、
そして、対戦相手を分析し
戦術構成の一翼を担うテクニカルスタッフなど、
皆が一丸となって勝利を追求する環境がここにはあります。
本気でサッカーを楽しみたい選手にとって、
これ以上の環境はありません。

Team Management

MANAGER

マネージャーは、ボトルに水を入れたり
ボールを拾ったりする基本的な
グラウンド業務に加えて、
練習メニューを選手が
スムーズにこなせるように
練習前にコーチから共有される
その日の練習メニューを先読みして
ビブスやマーカーの準備を行います。

スタッフとして日々の練習を共に作り
間近で選手の努力と成長を
目にすることが出来る分、
試合でチームが勝った時の喜びも
ひとしおです。

運営

マネージャーはその他運営面にも
大きくかかわります。
人によって関わり方は様々ですが、
GMとしてア式そのものを
マネジメントしたり、
リクルートや広報の力でア式を
より魅力的にしたり。
ア式が所属する
運動会総務部や
東京都大学サッカー連盟の
運営に携わったりと、
ア式蹴球部以外の組織とも
積極的に関わることのできる
環境が整っています。

TRAINER

トレーナーは、
怪我をした選手の応急処置や
アップの指示を担っており、
選手のリハビリ指導なども
必要に応じて行います。
選手一人ひとりに目を向けて
適切な対応をすることが必要不可欠で、
そのためにスポーツ医学に関する知識
なども身につけます。

TECHNICAL

テクニカルスタッフは、
チームを戦術的な面から支えています。

スカウティング

来たる試合に備えて、
対戦相手の分析を行います。
分析で得られた情報を
監督やコーチと共有し、
練習メニューや試合の戦術の決定に
活用してもらいます。
試合前には選手にもプレゼンし、
対戦相手の特徴を
チーム全体で共有します。
戦術を武器に戦うア式の要
といっても過言ではないでしょう。

WORKING UNIT

有志の選手も含め、様々な形でア式蹴球部の運営に携わることができます。

RECRUIT リクルート

サッカーを頑張る高校生に
東大ア式蹴球部の魅力を伝え、
将来入部してもらうことで
チームレベルをあげる取り組みをしています。

SPONSOR 協賛

昨年新設された新しい部門。
ア式蹴球部の"強み"を考えアピールし
企業の方から支援を頂けるよう試行錯誤します。

PR 広報

ア式蹴球部をもっと応援したくなるように、
TwitterやInstagramなどのSNSやHPを用いて
試合速報や広報企画を公開します。
画像班・映像班はコンテンツ作成のスキルも身に付きます。

GSS 御殿下サッカースクール

御殿下グラウンドで毎週日曜日の朝に開催される
文京区の子供向けのサッカースクール。
地域貢献も兼ねて、ア式蹴球部の現役部員が
子供たちにサッカーを教えています。

AFUT 運動会総務部

運動部全体の統括を行っている、
東大のスポーツ水準向上のため活躍している組織。
ア式蹴球部も運動会の一部活であるため、
スタッフとして総務部というより大きな組織での
活躍の場もあります。

UFFT 東京都大学サッカー連盟

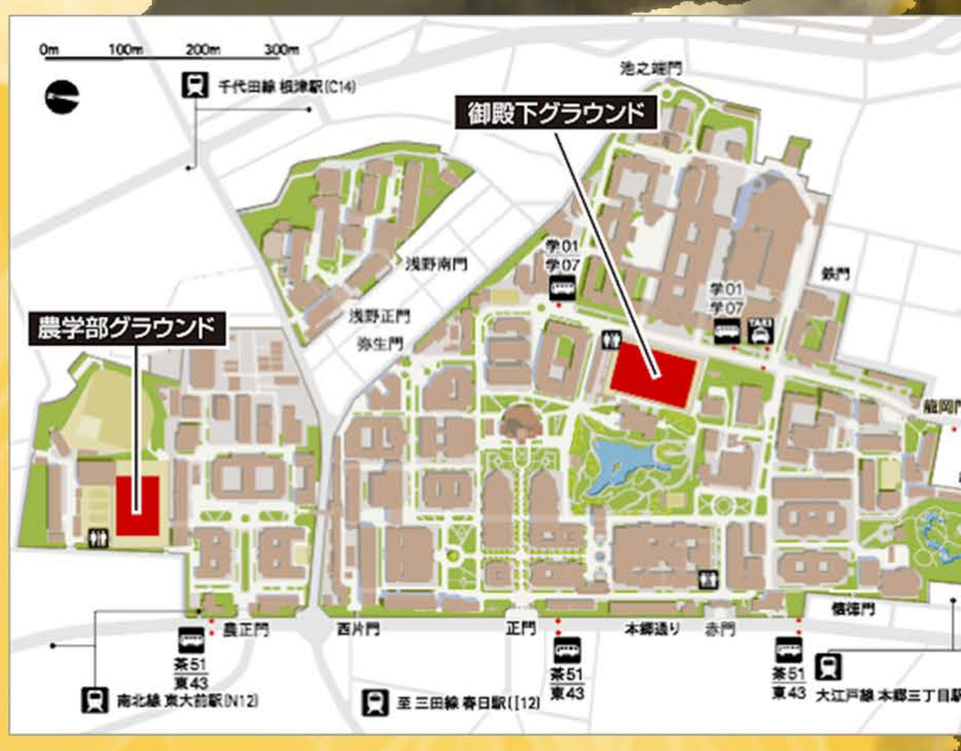
ア式蹴球部が所属する2部リーグ10校を含む、
約40校の大学サッカー部が所属する連盟。
ここに所属するスタッフは、様々な大学の人と協力しながら、
自チームも出場する試合の運営を行います。

試合分析

自分たちの行った試合などを分析します。
プロチームも使っている
分析ソフトを用いて
パスの有効性を示す数値を算出したり、
試合映像から振り返るべきシーンを
抜粋したりします。
そして、データ分析・映像分析の結果を
監督や選手へフィードバックします。

[ACCESS]

部室は東京大学弥生キャンパス
農学部グラウンド横



本郷キャンパス内御殿下グランド
東京メトロ丸の内線本郷三丁目駅　2番出口より徒歩10分
都営大江戸線本郷三丁目駅　5番出口より徒歩10分
東京メトロ南北線東大前駅　1番出口より徒歩10分
東京メトロ千代田線根津駅　1番出口より徒歩10分

弥生キャンパス内農学部グラウンド
東京メトロ南北線東大前駅　1番出口より徒歩5分
東京メトロ千代田線根津駅　1番出口より徒歩10分
東京メトロ丸の内線本郷三丁目駅　2番出口より徒歩15分
都営大江戸線本郷三丁目駅　5番出口より徒歩15分

[CONTACT]

練習参加・見学や質問は
各種SNSのDM まで！

新歓用

HP

新歓用Twitterでは
Peing-質問箱を通じて
匿名で質問ができます。
随時回答中！